

(毎月 1 日発行、創刊号平成 23 年 4 月 11 日)



復興ニュース

143号
2016年
3月1日



左から 愛知ネット天野竹行理事長、主催者代表：水野公正氏、東海新報鈴木秀彦社長

ありがとう 愛知ネットさん

平成 28 年 2 月 8 日オーシャンビューホテル丸森で、NPO 法人愛知ネット（天野竹行理事長）の支援に感謝する会（主催：水野公正実行委員長）が開かれた。会場には各方面からの出席者（懐かしい方も多く）でいっぱいとなり、これまで愛知ネットと一緒に活動したことが思い出されるひと時でした。

愛知ネットは、震災直後の 23 年 4 月 2 日に夢ネット大船渡を天野理事長が訪ねて来て、気仙

の市民活動団体と一緒に長期の被災者支援を行いたいとの申し入れがありました。早速 10 数団体へ連絡し、4 月 5 日に YS センターに集まり相談した結果、「気仙市民復興連絡会」（会長に岩城恭治夢ネット大船渡理事長）を立ち上げ活動を開始しました。

4 月 7 日には陸前高田市ボランティアセンターから要請を受け、全国から贈られた支援物資を、旧米崎保育園へ一時保管や米崎小学校に中学生が入ることから机・椅子・ロッカーの運びでした。

さらに被災地の瓦礫の中から思い出探しや、避難所での炊き出しも始めました。最初の炊き出しは広田町の慈恩寺（4 月 11 日）でした。メニューは「カレーうどん」でしたが、割りばしを持参せず迷惑をかけたことが忘れられません。その後の炊き出しは「もさばロハス」や「椿の里大船渡ガイドの会」の有志が行ってくれました。

最初の気仙市民復興連絡会事務所は大船渡市の YS センターの奥の部屋でしたが、余震で使えなくなり末崎町船河原にコンテナハウスを愛知ネットが運んで来て、23 年 12 月までお世話になりました。

愛知ネットの気仙の活動拠点は、住田町役場敷地内にトレーラーハウスを置き、事務所兼宿泊施設として利用しました。

愛知ネットの繋がり「コープあいち」の長期支援をはじめ多くの団体が気仙の被災者支援に来てくれました。

被災直後地元 NPO として何をどうすればよいのか分からなかった時、愛知ネットの人的・財政的指導・支援は多くの団体へ勇気を与え、今日の地元 NPO の活動があるものと思っています。感謝！感謝です。



愛知ネットの事務所：住田町役場に設置のトレーラーハウス

被災から 5 年 まだまだ続く仮設住宅生活

NPO 法人夢ネット大船渡 理事長 岩城恭治

阪神淡路の震災では、仮設住宅の最後の退去者は被災から 5 年後と聞きますが、この気仙では仮設から退去する最後の方は、あと何年後になるのだろうか。

震災後大船渡市・陸前高田市・住田町に建設された仮設住宅は 95 団地の 4,072 戸でした。平成 28 年 1 月末の入居状況は、2,163 世帯の 5,071 人（岩手県復興局生活再建課発表）と約半数に減少しましたが、まだまだ続く仮設生活です。

陸前高田市では平成 30 年 9 月に仮設住宅に住む世帯は 640 戸を予想しています。ですから仮設から退去する最後の被災者は、10 年後に

もなるのではないかと心が痛む、今年の震災記念日です。

被災から 5 年目の 3 月 11 日は、陸前高田市小友町茗荷に設置しています「お地藏様」を、平泉中尊寺からお出で頂く僧侶様と一緒に参拝し、震災の犠牲者を悼み、復興への誓いをするにしています。



小友地藏尊

震災から5年を迎えて…投稿をいただきました

復興住宅から発信する「灯り」

震災前の居住地付近に建設された復興住宅に入居し、7か月経ちました。私の住む市営川原アパートは全戸29世帯中、27世帯が入居済みです。仮設住宅で支援されていた皆さまは引き続き復興住宅へも足を伸ばしてくださっています。

今、立ち止まってコミュニティという点から5年前を振り返ると、自営業だった私はお客様がいつ来店されるかわからないため頻りにイベントなどに参加することはありませんでした。しかし、震災により店舗が流出・失職したことにより自由な時間が得られたのです。それは辛い悲しみから生み出された「灯り」のようなものでした。さまざまな感情は表裏一体。人と人との交流は異文化の交流です。それまでは体験することのなかった心を揺さぶられる芸能文化・宗教などに触れあう機会でもありました。

この復興住宅から発信する「灯り」…。強弱・大小ありで一様ではありませんが「私たちはこうして元気にしていますよ」とコミュニティに心を寄せて支え合いながら、支援への感謝に答えていきたいです。

大船渡町 川原アパート 平山睦子さんより

大災害からまだ5年、もう5年

平成23年3月11日の大災害より5年、被災した人、直接の被災を免れた人、それぞれの思いが違ってきただけに思う。復興計画の予定は出ているが行政や国の基準チェックなどで思うように進まず、住宅再建がまだまだ先の人たちにとってはまだ5年しかたっていないのかと思う。

また特に被害がなく支援に努力してきた人はもう5年も支援しているので、そろそろ自立の努力を促す時期と思う。

各家庭の事情により、思いは様々であるようだ。被災し行政依存の私は「まだ5年か、あと2年待たなければならぬか」と思うこの頃です。また5年も支援して下さる方々に感謝し、支援に頼る生活より脱却する時期だと思う。支援を受けている自分たちが行動を起こすことです。

私の入居している仮設住宅では孤立にならないようにほぼ毎日何らかのグループ活動を計画し、集会場に集まる機会を作っている。また安全安心活動として夜間の見回りなども実施し、自治会活動の活性化を図るようにしている。

現在わずか45世帯前後だが、自治会役員は10人と多く、何かしらで自治会に関わるようにしている。役員の中には仮設よりすでに独立し、他地域に移住した人もいるが、被災した者同士の絆を大切にしている。

いずれ支援した人、支援を受けた人、感謝と慈愛の気持ち、報恩謝徳を忘れてはならない。

赤崎町 後の入仮設住宅 吉田忠雄さんより



大船渡・川原アパートで「にぎり観音」を作りました



大船渡市大船渡町の川原アパートで2月23日午後、木で出来た粘土で観音さまを作る「にぎり観音づくり」が行われました。

この日は、アパートの住民、淑徳大学、都内で路上生活者に炊き出し支援を行っている「社会慈業委員会ひとさじの会」の皆さんら計32人が参加し、皆で楽しく観音さまを作りました。

このイベント開催のきっかけは、「ひとさじの会」の吉水岳彦（がくげん）さんが以前、大船渡市の永沢仮設を訪れた際、「仏像を作りたい」と願う女性に出会ったこと。女性の願いを叶えたいと思った吉水さんは、仏像を作るイベントを企画した総合研究大学院大

学の君島彩子さんに声をかけて、今回のイベントが実施されました。

皆さん2時間ほど作業に取り組み、たくさんの個性豊かな観音さまが誕生しました。吉水さんらによって、「魂入れ」もしていただいた観音さまたち。皆さんリビングや仏壇に飾るそうです。

横田小仮設の皆さん雑巾を贈る



「子どもたちから校庭を奪っているようだ」と言う自治会長の山口篤吉さん（87才）ら、仮設住宅の方々は、2月22日同敷地内の横田小学校を訪問し、佐々木貞子校長へ雑巾70枚を贈りました。

この雑巾は、夢ネット大船渡が毎月開催している「手芸講習」（ジャパン・プラットフォーム助成）に参加している方々が、入居者へ呼びかけ集会所へ集まり、笑いながら作った雑巾でした。

受け取った佐々木校長は「雑巾はいくらあっても不足するので有り難い。まして仮設集会所で笑い合っただけで作ってくれたと聞いて、なおさら嬉しい」とのお礼の言葉でした。山口会長は「この仮設に

は文句を言う人もなく、みんな協力してくれる。一人暮らしの心配な人もあり、これからも声を掛け合いたい。あと2～3年も住み続けなければならない仮設住宅の生活を、助け合って楽しく暮らしたい」とのお話でした。

韓国のお菓子でお茶っこ《陸前高田市・諏訪仮設》

仙台栄光教会の皆さんは2011年8月から毎月、陸前高田市の主に矢作町内の仮設でお茶っこなどのイベントを開催しています。

2月22日には矢作町の諏訪仮設でお茶っこ会を開き、住民ら17人が参加しました。皆で一緒に韓国の伝統的なお茶やお菓子をいただきながら、楽しい時間を過ごしました。

参加した女性は「いっぱいしゃべった。楽しかった。珍しいお菓子も食べられて良かった」と大満足な様子でした。

仙台協会の皆さんは4年半近く、仙台から高田へ通いながら支援を続けており、住民の皆さんと深い絆を築いています。仙台協会の女性が「わたしは韓国人ですし、また岩手の方言もあるので、言葉が分からないこともある。でも心がつながっているから大丈夫」と話していたのが印象的でした。今後も継続して開催していく予定だそうです。



きっぴんきっず豆まき

大船渡市三陸町吉浜の子育てサークル「きっぴんきっず」（白木澤京子代表）では毎週月曜日、吉浜地区拠点センターで活動を行っています。

2月8日は豆まきを行いました。子供たち、元気に鬼退治！！楽しかったね～！！

おやつには大船渡市食生活改善推進員の皆さんが作った「かまもち」や「がんづき」をいただきました。

「きっぴんきっず」の活動には市内外を問わず、誰でも参加できます。子育て世代の皆さん、お気軽に遊びに行ってみてください！



◎東日本大震災被災状況写真展 Part3 ご案内◎

【開催期間】2月13日（土）～3月27日（日）9：00～16：30

【場 所】大船渡市立博物館

【休館日】毎週月曜日、祝日（3月21日は特別開館）

【入館料】300円、「世界の椿館・碁石」との共通券は600円

三鉄盛駅ふれあい待合室からのご案内 TEL0192-47-3542

◆三鉄盛駅ひなまつり

3月3日（木）盛駅にいらしてからの楽しみ♪午後1時からオカリナ演奏を予定。

◆三鉄盛駅ホワイトデー

3月14日（月）三陸鉄道南リアス線盛駅利用者にお菓子をプレゼント。
先着100名様。お一人様一回限り。

◆三鉄駅弁列車 《申し込み必要》

3月19日（土）11：00に三鉄盛駅集合
11：30盛駅発—釜石駅—13：30盛駅着
感謝♪特別企画あり。

大人気の『いわて恵みづくし弁当』をいただきます。
食べ物・飲み物の持ち込み自由！お気軽にどうぞ。
参加費2500円（お弁当、乗車券代）です。
定員48人。締め切り3月14日（月）



列車内でのマジック披露

◆三鉄 駅からウォーク 《申し込み必要》

3月26日（土）8：30に三鉄盛駅集合
9：13盛駅発—三陸駅—11：55盛駅着
三陸大王杉、ど根性ポプラ、未音崎湾望台を散策！
参加費600円（保険代、往復乗車券代）
持ち物：飲み物 締め切り3月23日（水）



おいしい駅弁

◆無料法律相談 《申し込み必要》

3月27日（日）10：00～13：30
弁護士が無料で相談に応じます
相談時間は1人40分です。仮設住宅なども訪問相談可能です。

大船渡市で講演『統合失調症がやってきた』のご案内

統合失調症はおよそ100人に1人弱がかかる頻度の高い病気です。
「タモリのボキャブラ天国」などで人気絶頂の1999年、ハウス加賀谷さんが幻覚・幻聴などの統合失調症を悪化させたことにより活動休止したお笑い芸人『松本ハウス』が、統合失調症の闘病生活や復帰について笑いを交えながらお話しします。

入場は無料ですが、申し込みが必要です。

【日 時】 平成28年3月12日（土）14：30～16：00

【場 所】 リアスホール

【申し込み】

3月11日（金）までに電話またはファックス、メールで大船渡市生活福祉部地域福祉課
（TEL0192-27-3111、fax0192-26-2299、メール fukushi@city.ofunato.iwate.jp）へ。

～ご意見、ご感想をお寄せください～

短歌・俳句作品も募集しています。

◎どなたでも応募可能です。

◎電話、メール、封書でお寄せ下さい。

送付元：NPO 法人夢ネット大船渡

*〒022-0003

大船渡市盛町字内の目14-15

*TEL/fax 0192-47-3271

*メール npoyumenet@bz01.plala.or.jp

この復興ニュース発行には
岩手県福祉基金からの助成と
MS&ADゆにぞんスマイルクラブ
NPO 法人美山まちづくり NPO
（福井県福井市）
のご寄付を受けています。